

「就業継続アシストセミナー」第1回 開催レポート

平成29年8月27日（日）13:30～16:00

女性が働きながら、家庭との両立やキャリアアップをしていくには、仲間が必要。

「同じような境遇に置かれた仲間と出会い、繋がり、乗り越えてほしい」という思いから、全4回の働く女性
全力応援プログラム『就業継続アシストセミナー』の第1回目を開催しました！

◆第1回テーマ『いま、働く女子がやっておくべきお金のこと&わたしのこと』

講師：中村芳子さん（ファイナンシャルプランナー）

－お金のこと、どこから考えたら良いの？－

「子供が生まれるといくら必要なんだろう？」「家を購入するとなると、どれくらい貯金していたら大丈夫なの？」「老後ってどれくらい必要？」など、各ライフステージに伴う出費は、かなり未知数。

そこで、お金にまつわる悩みについて、「私たちは何をすべきか」「いつまでにいくら貯めればいいのか」という具体的なお話を、いろいろな角度から中村さんにお話しいただきました。時おり、グループワークを行いながら、参加者同士が抱える実際の悩みも共有しながら、一緒に考えていきました。



－ 私たちには、選択する自由がある！ －

はじめに中村さんが紹介したのは、“昔の女性の生き方”と“現在の女性の生き方”の違いです。

昔の女性は中学、高校を卒業して数年働いた後、退職して 20 代前半で年上の男性と結婚をし、子供を産み育て、40 代後半で夫の両親の介護、60 代以降は夫の介護…という人生を歩むのが、一般的だったそうです。

「このような人生では、自分で選ぶことがないですよね？でも今は違います。私たちが持っているものは何でしょうか。それは選択する自由があるということなんです」という言葉に、今を生きる私たちが持っている選択肢の幅に気付かされました。

－ 不安からお金を使うことはやめよう－

一方、「自由には責任と痛みが伴う」とも…。自分で生き方を選択できるものの、かえって迷い、不安を抱く場合もあるといいます。お金の不安、自分の人生の不安、将来の不安。

しかし、不安からとった行動は、将来あまり良い結果に結びつかないとのこと。

「例えば、不安からマンションを購入したとします。でも不安から購入すると、間違った物件を、間違った資金計画で買ってしまいます。正しい判断ができなくなってしまうからです」。不安から逃げるために、お金の決断をしたり、お金にまつわるアクションをするのではなく、“不安”そのものと向き合い、乗り越えた先に描ける“希望”をもって動くことが大切なのだそうです。



－最高のマネープランは、働き続けること！－

生涯未婚率や離婚率の上昇、不妊治療を行う夫婦の増加、終身雇用が 100%保証されているわけではないこのご時世。「結婚は生活保障ではない」と中村さんは話します。

「親の世代は公的年金の額も十分、給料は年功序列で毎年上昇、それに地価が上昇する前に自宅を買い、買った後に値上がりしました。そんな世代とは、お金の環境が違います。今の時代の最高のマネープランとは、実は働き続けることなんです。」と述べます。

「昔は働くことを『辞める』か、『継続する』かの選択しかありませんでした。でも今はアジャスタブル、調整することができます。人生は 90 年です。そのうち子育て期間は 15 年から 18 年。働き方を調整しながら、80 歳まで働こうという気持ちが必要です」という言葉には、働くことへの後押しをされた方も多いようです。

“私は何をしたいか、何をしたくないか”を長期的な視点で考え、母親自身が夢を抱いて成長していくことで、子供も夢を持つことができるといいます。

子供のために…と、何かを諦め続けるのではなく、むしろ“できる”工夫をして楽しく生きていきたいものです！

－ロールモデルは、社内だけでなく広い世界で見つけることができる！－

グループワークでは、参加者同士で、何歳までに何をしたいかを話し合いました。

「65 歳で世界一周の旅をしてみたい」「100 歳まで生きたい。仕事を長く続けてボケ防止につなげたい」「55 歳まで会社で働いた後、海外で一人旅をしてから、スナックを 10 年間やりたい」「65 歳でハワイのジャングルに移住して、自給自足の生活をしたい」など、どれもワクワクするような人生設計ばかり！

グループワークの最中に、「自分の職場にはロールモデルがない」という意見があったのを受けて、「ロールモデルは、もっと広い世界に求めてはどうでしょうか？例えば私の尊敬する人に、レニ・リーフェンシュタールというドイツ人女性がいます。ナチス・ドイツで製作された記録映画『オリンピア』を撮った人で、長らく『ナチ

スの協力者』として世間から黙殺された人です。しかし、75歳で年齢をいつわってスキューバダイビングのライセンスを取得し、水中の写真を撮りためて、100歳で映画公開、101歳の時に40歳も年下の夫に見守られて亡くなりました。ロールモデルは自分の会社の中だけではなく、例えば世界で、マイノリティであっても成功している男性など、広い視点で求めてみてはいかがでしょうか？」と中村さんご自身の経験からアドバイスをされていました。

ー平均ではなく、自分のライフプランを描いてお金のことを考えようー

一人ひとりの根本に根付いている“人生観”を、改めて見つめ直したあとは、具体的な貯蓄についてのお話がありました。貯蓄において大切なことは、“平均”や“周り”を気にしないことなのだそうです。

「必要なのは、誰がいくら貯めているから私もいくらまで貯金しなくては、という『平均』や『周り』の基準ではなく、自分がやりたいことや、自分の年取を基準に考えることです。」

実際に中村さんが仕事上で用いている計算式を使いながら、参加者全員で老後資金や住宅資金の計算を行いました。そして最後には、貯蓄するだけではなく『お金を増やす』ことについても考え、お金についてじっくりと向き合う貴重な時間になりました。

ふだん、ひとりで悩みがちな“お金”のことですが、自分自身のライフプランから紐解いて考えると、不安よりも希望をもって“お金”と向き合えた方が多かったようです。

「自分が今を快適に過ごすために、そして叶えたい未来のために、働き続けながらお金を増やし大切に使おう！」そう思えたステキな時間でした♪

■参加者の声

★お金のことだけではなく、女性の生き方、人生設計など、幅広くお話が聞けてとても良かったです。

★前向きになれる講演でした。自由に生きる大切さを改めて考えさせられました。

★仕事も子供もやりたいことも、全部あきらめない人生を送るために選択していきたいと思いました。

★お金について、自分で考えるだけでは限りがあるので、専門の方のお話が聞けて参考になりました。

★親の介護、自分たちの老後…。不安な気持ちをベースに貯金のことを考え、多く貯め過ぎていたため、現在の暮らしは収入に比べて苦しいものになっていた。もう少し楽しめる余裕がある幸せのためにお金をおうと思いました。

(一部抜粋)